



国宝、誕生。 専修寺 御影堂・如来堂



高田本山専修寺を中心に発展した一身田町には、寺内町の歴史的なまち並みが今も多く残ります。その中心にある専修寺の御影堂と如来堂は、いずれも高さが25mを超える国内屈指の規模を誇る木造建築で、平成29(2017)年11月28日、三重県内で初めての国宝建造物に指定されました。

専修寺の伽藍は、正保2(1645)年の大火による再建をきっかけに順次建立されました。津藩から土地の寄進を受け、大幅に寺領を拡大した上で、最初に御影堂の建設が始まり、寛文6(1666)年に落成。その後も整備が続けられ、寛延元(1748)年に本堂である如来堂が完成しました。

如来堂の内観



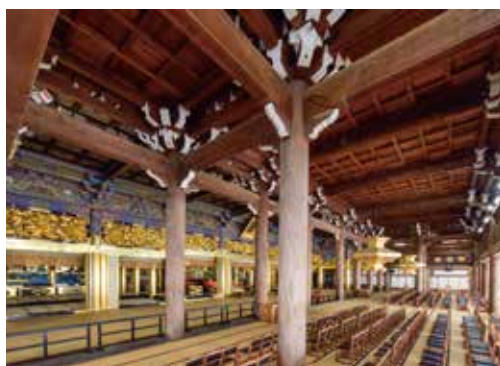
細部まで金箔が施された美しい宮殿(くうでん)



柱の間隔を広く取り、天井の高さを変えることで堂内を広く感じさせている。内陣は柱と壁、欄間に至るまで金箔をはり、壮麗な空間を作り出している

如来堂

御影堂の内観



天井までの高さは約8m。通し柱の数を減らして作られた広い空間では、一度に約2,000人が参拝できる。内陣の金色に輝く柱と多彩な天井画が尊厳な雰囲気を出し出す



金と極彩色の花で飾られた宮殿



軒の荷重を支える、均整のとれた美しい組物。上から順に猿・龍・象と、さまざまな表情を見せる

専修寺境内の国の重要文化財



御廟唐門及び透塀



御廟拝堂



対面所



太鼓門



唐門



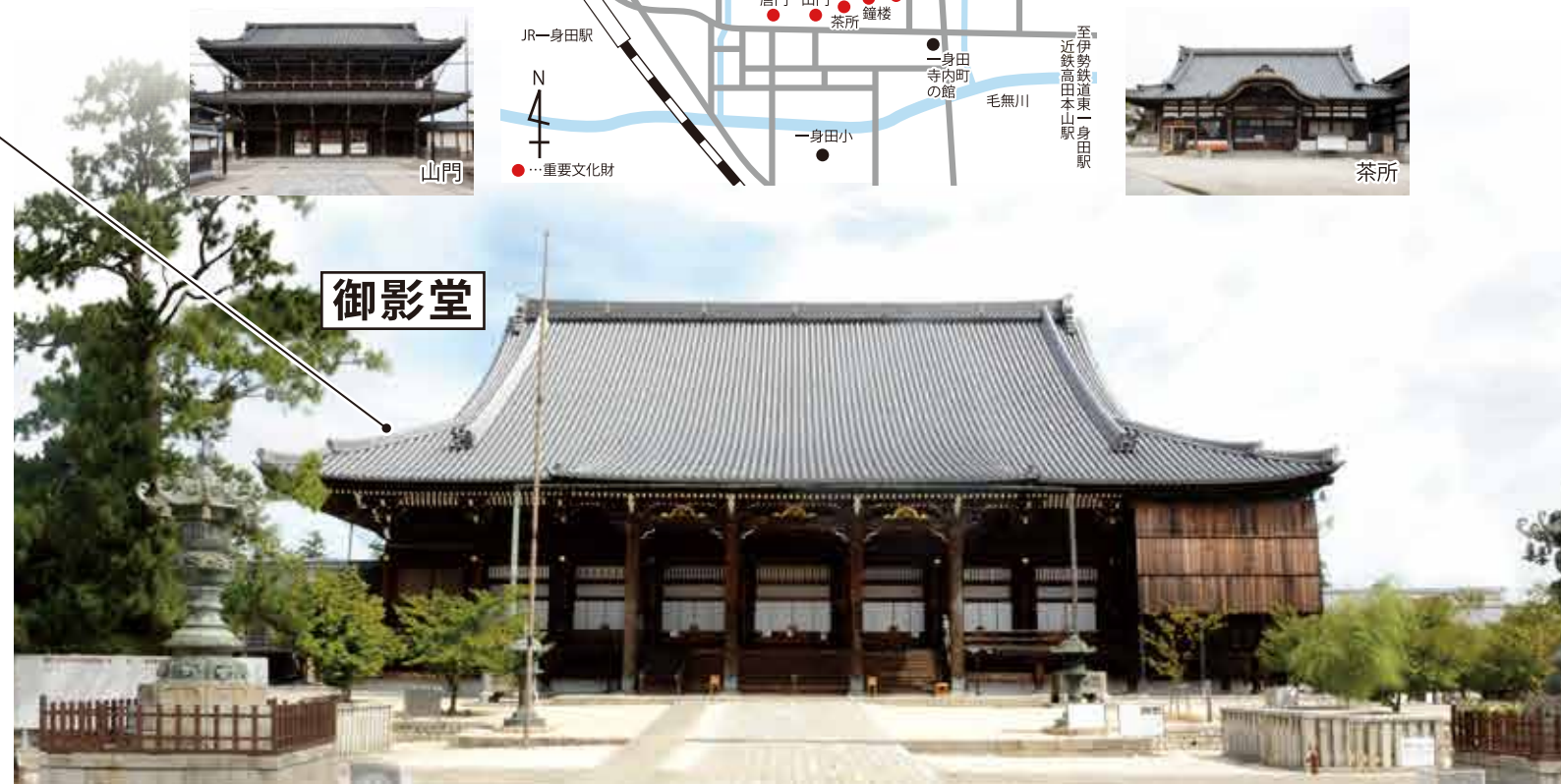
山門



鐘楼



茶所



御影堂